

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191300041		
法人名	社会福祉法人慈恵会		
事業所名	さわやかグループホームさかほぎ		
所在地	岐阜県加茂郡坂祝町黒岩165-1		
自己評価作成日	平成22年10月18日	評価結果市町村受理日	平成22年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2191300041&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年11月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニット9人の小規模の利点を活かし、フットワーク良くアットホームに出来る限り自由に、家庭と変わらぬ生活を追及している。地域との交流では廃物利用クラブや切手収集クラブにおいて、ボランティアさんに定期的に来て頂いたり、また地域のフォークダンスサークルやふれあいサロンに参加したりしている。また隣接施設の習字クラブにも参加している。毎月1回の夕食や年に数回の外出行事、毎週1回のヤクルト販売員の訪問などを通じて選択の機会の確保にも努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かで静かな環境の中にあり、同法人経営の特別養護老人ホーム・養護老人ホームと隣接するグループホームである。高齢化や人口の減少が危ぶまれる町の現状を、管理者は常に念頭におき、福祉・介護・行政の連携を深めるため、近隣の福祉事務所とも協力しながら、多方面からの交流事業を計画して、意欲的に活動している。交流事業への参加では、手作り作品をバザーに出店し、得た収益を町に寄付するなど、職員だけでなく、利用者にも達成感のある良い影響をもたらしている。周辺地域に留まらず、町全域を巻き込んだ福祉の拠点となるよう努力している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	慈恵会基本理念を毎週月曜日に職員全員で唱和し、その理念を共有している。	理念は、「当たり前」に地域の中で安心して暮らせるように」と掲げ、毎週月曜日に職員全員で唱和している。家族・地域との交流を深めるながら、安心して暮らせるケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接施設の行事やクラブに参加している。また老人会や町民まつりにも参加して地域の一員として交流している。	事業所周辺の散歩コースで、地域の人々と日常的に挨拶を交わしている。また、老人会の行事に参加したり、町民祭りなどに参加し、地域の一員として交流している。隣接地には、法人の福祉施設があり、高齢者や関係する地域の人達と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	廃物利用クラブで作った作品を町民まつりでバザーに提供している。また、広告で作った箱を地域の幼稚園に届けている。また地域の認知症サポーター養成講座に管理者が協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議において毎回運営状況を報告し、そこで意見を伺いサービスの向上に繋げている。改善点があれば早急に対応している。	会議は、町福祉課・民生委員・幼稚園園長・自治会長・家族代表等の参加で2ヶ月に1回開催されている。事業運営報告と、幼稚園との交流促進についての意見があった。会議で出された意見・要望は、サービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい、定期的に行き来する機会を作っている。また、月1回担当者や関係機関との連絡会議の開催を依頼している。また、待機者の有無などの情報を共有したりしている。	運営推進会議だけでなく、毎月開催される連絡会議に出席し、事業所の入居状況や待機者について報告している。町担当課からは、町の行事予定や案内などの情報提供が行われ、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束をしないということを理解しており、玄関の施錠も防火で行う夜間以外は行っていなく、常に自由に玄関から外へ行き来出来るようにしている。	職員は、身体拘束の意味を十分理解し、身体拘束のないケアを実践している。また、玄関においても、人の出入りをセンサーで感知し、チャイムで知らせており、玄関・窓・テラス共に、施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学んでおり、職員一同注意を払い虐待の防止に努めている。		

岐阜県 さわやかグループホームさかほぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学んでいるが、現在は適応する人がいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面接や入所時に不安のないよう十分に説明を行い、疑問点があればゆっくり丁寧に説明させて頂き、ご利用ご納得頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者から日々の生活の中で意見や要望などを伺い、家族には面会時にどんなことでもおっしゃって下さいと、常日頃話している。それらを施設長も参加する介護員会議の中で議題としている。	面会時には気兼ねなく意見が言えるよう雰囲気づくりに努めている。「職員の異動の情報が欲しい」「毎月の体温・血圧等測定の報告はほしくない」など、家族からの意見に速やかに対応し、改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回介護員会議を開催し、意見や提案を聞いている。また、2ヶ月に1回エリア全体のエリア会議を開催し、その場においても介護員会議での意見を反映させている。	毎月、管理者を交えた職員会議で意見や提案を聞いている。職員からは、ケアの困難事例や、設備改修の要望も出ている。意見・要望は、エリア会議(法人の区域単位)で検討し、速やかに改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として非常勤から常勤職員への移行や、資格手当の増額による資格取得への意欲向上などの働く環境の整備、現場からの提案事項の迅速な許可などの現場尊重の姿勢、定期昇給の実践等給与面の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ法人が主催する半年間1サイクルの新人研修や、1年間1サイクルの中堅者研修への参加や県主催の研修会、地域の研修会への参加の機会を確保し、職員個々や事業所の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ法人のグループホーム6事業所と2ヶ月に1回の定例会議を実施し、その際会議開催場所を各事業所持ちまわりとし、相互のネットワークの強化、互いの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されて間もない方には特に細心の注意を払い、心配ごとや困ったことがないかどうか伺っている。また、何か要望がないかどうかお聞きし安心して頂くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時など最初に分からないことや不安なことを伺い、安心して頂くように努めている。また、面会時にもその都度伺って信頼関係を深めるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族から相談を受けた時は、すぐに必要な対応をしている。また常にご利用者やご家族の立場に立った近況の把握と傾聴に努め、ニーズを見極めるよう心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を人生の先輩として捉え、生活のいろいろな場面で意見を伺ったり教えて頂いたり、またお願いしたりと共に持ちつ持たれつ関係を築くように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会時の対応の時には、できるだけ日常の様子などをお伝えしたり、また利用者の家族への温かい思いなどをお伝えしたりして、本人と家族との絆を大切に深めるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や近所の人に遊びに来て頂いたり、こちらから出向いたりして関係維持に努めている。また自宅へ外泊されたりして継続的に交流できるように支援している。	「自宅に帰りたい」との要望に沿って外出したり、通っていたデイサービスや社会福祉協議会の行事に参加して友人・知人と再会している。地域の老人会・町民祭りなどにも積極的に参加し、馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で会話がはずむように仲介したり、会話の苦手な人には、ボール遊びや歌などを一緒に行い、お互いのコミュニケーションをとるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所される時も退所後の方向性を家族と共に考え、利用者の一番ふさわしい状況になるように支援している。また退所先の関係者には本人の状況や習慣、好みなど出来る限り詳細な情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの利用者のペースに合わせながら自己決定をしてもらったり、散歩や買い物等も利用者の意向に合わせて実施している。	利用者個々のやりたい事・出来る事を、職員は日常の会話や家族からの情報で把握している。その日の気分や体調に合わせ、散歩や事業所内での活動、買物、外出など、個々の意向に配慮して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりのこれまでの生活や歴史などを面会時に家族からお聞きしたり、会話の中から読み取るよう努め、それを生活に活かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに合った過ごし方をして頂いている。調理の準備や盛り付け、食器洗いや洗濯たたみなど無理なく出来る事をして頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向を伺いながら、家族には面会時に意見を伺い、双方の意向を反映した利用者主体の介護計画を作成している。定期・随時の見直しもしている。	利用者・家族と話し合い、担当者、ケアマネジャー、必要時は医師、看護師の意見を反映した介護計画を作成している。また、3ヶ月毎の定期見直しと、状態の変化に応じ、随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や排泄、ケアの内容などケース記録に個別に記入している。また職員間で情報共有するために、職員間申し送りノートを使用しケアや介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズや希望に合わせて柔軟に対応している。例えばビールが飲みたいという方には、其の旨を家族に連絡し了解を得、家族にビールを持参して頂きご本人に満足して頂いたこともある。サービスの多機能化に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域消防署の指導のもと地元自治会や企業との防災協定を締結し、総合防災訓練を行っている。また民生委員やボランティア、保育園等と日頃より交流し豊かな暮らしを提供できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は利用者や家族が希望するかかりつけ医とし、家族とのつながりを大切にする上でも受診には家族が同行することになっている。同行できない家族の場合や緊急時には、職員が同行するなど、柔軟に対応している。	利用者個々のかかりつけ医には、基本的に家族の同行で受診している。事業所での様子は、1ヶ月ごとの体温・血圧等の測定値を医師に提示している。家族の都合や緊急時には、職員が受診に同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師との連携により日頃より医療面の指導助言を受け、急変時には相談助言の体制を構築している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は定期的に面会に行き、ソーシャルワーカーや主治医、看護師長らとの連携を図りスムーズに入退院が行えるよう関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	一時的な車椅子使用の場合を除き、常時車椅子利用と終末期の場合は退居してもらうことを、入居前に説明し承諾してもらっている。また退去がスムーズにできるよう支援している。入院時には見舞いに行き医師や家族と話し合い、重度化への方針を共有している。	重度化・終末期について、入居前に、事業所の方針を本人・家族に十分説明し、了承を得ている。終末期には、退居してもらう方針である。退居後の受け入れ先の確保等、利用者・家族が安心できるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルの常備また利用者の急変や事故発生時に備えて、併設施設の看護師から応急手当の仕方や初期対応の仕方など指導助言を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回避難訓練を実施している。また併設施設合同の定期的な訓練の実施の際、消防署や行政、地域との協力体制も得ている。また今年度は初めて行政との協力のもと風水害避難訓練も実施した。3日分の備蓄もある。	毎月1回の自主避難訓練を実施している。今年度は、行政や地元自治会と合同の、風水害を想定した避難訓練が行われた。地域の自治会・大手企業との防災協定が結ばれ、協力が得られている。	今後もさらに、夜間や風水害などを想定した訓練を積極的に実施し、事業所としての努力を広く伝え、利用者・家族の安心に繋げられたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への言葉掛けにはもちろんのこと排泄支援の際には、交換したパッドを新聞紙に包んで見えないようにするなどプライバシーに配慮したケアを実践している。	職員は、利用者一人ひとりに、丁寧な言葉掛けを行い、利用者のペースで介護している。また、トイレや入浴時の誘導も、全く周囲に気付かれる事なく、円滑に対応している。利用者の出来る事への支援も、無理強いせず、細やかな配慮で行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で「これはどちらがいいですか」など意思の表出を促すように働きかけている。意思表示のあまり出来ない人には、表情をみて本人の希望を把握するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしの中でその人のペースを大切にしている。例えばお風呂に入る時間や食事をしている時間や寝る時間などその人の希望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれはその人の好みを考え支援している。美容院は移動美容室に依頼し好みのスタイルになるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	特に何が食べたいのか嫌いなものは何かを日々の関わりの中で把握し、メニューに反映させている。食材の下準備や盛り付け、配膳、片付け、食器洗い、食器拭き等利用者の力を発揮できる役割を引き出し職員と共に行っている。	利用者・職員全員が食卓を囲み、楽しい食事風景である。食材の買物は、利用者と一緒に出かけ、選んでもらっている。まつたけご飯・へぼ飯など、季節や旬の食材を優先し、食事の会話も賑やかである。利用者は、野菜の下準備や下膳・後片付けなどの役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後食事や水分の摂取量を把握し、必要に応じて栄養補助食品を摂って頂いたりしている。併設の管理栄養士に毎月栄養チェックをしてもらい、指導助言を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声掛けをしている。自己にて出来ない人については、かならず付き添い口腔内の清潔保持に努めている。		

岐阜県 さわやかグループホームさかほぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄習慣やパターンを把握し、それに合わせて支援し自立に向けた取り組みを行っている。紙おむつから紙パンツへ移行し、現在トイレへ誘導し尿意を取り戻せるように支援を行っている。	排泄が自立している人は2名、常時オムツを使用している人も2名ある。5名については、排泄パターンを把握し、誘導や介助で昼夜対応し、ポータブルトイレの使用は無く、自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため水分をできるだけ摂って頂けるように支援している。また散歩や機能訓練をして頂いたり、食物繊維の多い食品を摂って頂いたり工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴を希望する人には希望どおり対応し、少なくとも2日に1回は入浴できるよう取り組んでいる。入浴剤を使って温泉気分を味わってもらったり菖蒲湯やゆず湯などで季節感を感じてもらえるように支援している。	入浴は基本的に週3回以上で、毎日入浴の希望があれば対応している。菖蒲湯、ゆず湯などの入浴剤を使い温泉気分を味わっている。介助者と、思い出話をしながら、ゆったりと入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて自由に休息して頂いている。また夜も希望の時間まで自由にテレビを観て頂いたりして、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬について理解しており毎食後手渡し確実に服薬して頂くように支援している。また症状の変化など見られる時は、かかりつけ医に連絡し服薬調整の指示を受けたりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や持てる力を活かしその人に合った役割を考えお手伝いして頂いている。クラブ活動を通して楽しんで頂いたり、歌を唄って気分転換をして頂いたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの周辺を毎日散歩したり、近くの池の鯉に餌をあげに行ったり、食材や鯉の餌を買いに行ったりと日常的に外出できるように支援している。また毎月1回外食行事として飲食店へ出掛けている。	毎日の散歩は、一人ひとりの希望で、行き先と体調に合わせて支援している。毎週、事業所前にある池の鯉の餌を購入する人や食材を買いに出かける人などのために、慣れた商店やスーパーなどへ日常的に出掛けている。	

岐阜県 さわやかグループホームさかほぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己にて現金管理できる人は家族了承のもと所持金をいくらか持っておられ、買い物時は自分で支払われる。自己管理できない人は所持されていないが買い物時の支払いをして頂くよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があればいつでも対応し、自分でかけられる人には使用して頂いている。また依頼された場合には職員が代わりに連絡している。手紙も依頼があれば支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間、食堂に花を飾ったりして季節感を演出するように心掛けている。また、廊下には行事などの写真を貼り楽しんで頂いている。食堂や居間、台所がつながっているのでご利用者に心を配りながら調理をしている。	共用空間は、利用者と共に毎日掃除され、隅々まで綺麗に掃除が行き届いている。木のぬくもりがある建物で、天井が高く、採光もやさしい。利用者が自分の力で動けるように、手すりを設置し、障壁のない広い空間が確保されている。玄関・居間・食堂には季節の花を飾り、居心地の良い空間づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のテレビはホールにあり、いつでも誰でも自由に見ることができるようになっている。また静かに独りになりたい方は、自由に居室で過ごされている。気の合った人同士で居室で談話されることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の使い慣れた机や椅子、座卓などを持ち込まれており居心地よく過ごせるよう支援している。	居室には、洗面台・ベッド・箆箆・クローゼットが備え付けられている。思い思いの飾り付けがされ、個性のある居室になっている。居室の入口には、自分の部屋と認識しやすい木の表札と、居室内は、ゆとりのある空間づくりを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室を間違える方の入口にはのれんをかけたり、また杖歩行の方のために食堂の椅子に杖置きを設置したりして自立かつ安全に気を付けている。		